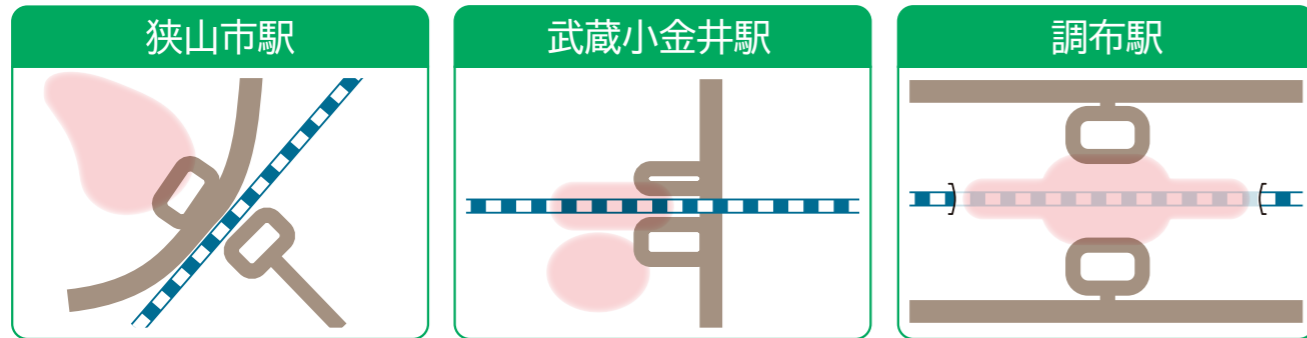


駅とまちとの関係を考えてみよう

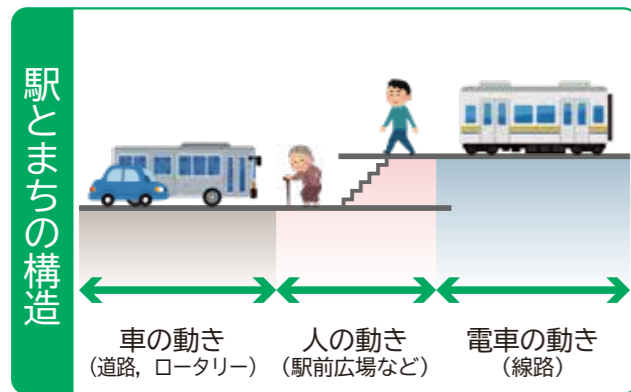
視察先の駅周辺の構造を比べてみると、駅や線路、道路、まちの位置関係がそれぞれ違うことがわかります。駅とまちとの関係を考えてみると、それぞれの駅の印象や景観をつくっている要素がわかるかもしれません。



石川 初 氏
慶應義塾大学大学院教授
調布市景観アドバイザー



- 狭山市駅**
 - 線路と道路が並行しており、駅が立体的に乗り越えて作られている
 - 駅前広場の先にまちが広がっている
- 武蔵小金井駅**
 - 線路と道路が直行しており、広場がその横に作られている
 - 線路沿いや広場から少し離れたところにまちがある
- 調布駅**
 - 道路が駅と離れたところがあり、線路と交差する道路がない
 - 線路が地下化し、地上部が一体の広場になっている



- 電車と車を取り換えるため、道路や線路、歩行者が交差している
- 多くの駅では、ペDESTリアンデッキなどで歩行者の動きを立体にすることで、動線の交差を解消している
- 調布駅では、線路が地下にあることで南北の広場が一体になっており、珍しい構造をしている

景観まちづくり市民検討会のご案内

次回の景観まちづくり市民検討会では、景観アドバイザー石川氏と、慶應義塾大学大学院石川研究室の学生による、調布市内の駅のフィールドワークについてお話していただく予定です。

参加者を募集しています！
興味のある方はご連絡ください♪

調布市では、景観まちづくりについて、景観だよりでお知らせをしていきます。

発行：調布市都市整備部 都市計画課 景観係

Tel：042-481-7746 Fax：042-481-6800 Email：tikubetu@w2.city.chofu.tokyo.jp

ちょうふ 景観 だより

令和2年3月31日発行
第50号

本号のもくじ

- [第4回検討会] 駅周辺の景観の要素を考えました
- 駅とまちとの関係を考えてみよう



駅周辺の景観の要素を考えました

2月21日に開催した第4回景観まちづくり市民検討会では、駅の視察にでかけた感想や駅の印象、気づいたところを参加者のみなさんで共有しました。本号の景観だよりでは、みなさんからいただいたご意見と、そこから見える『駅周辺の景観で考えるべき要素』をご紹介します。

狭山市駅

地形の立体感

- ・地形を活かした駅とスカイテラスのデザインが印象的
- ・高低差だけでなく、斜面も活かすことができる
- ・遠方に山並みが見えてよいが、手前にビルが建ちつつあるのがもったいない

駅前広場・交通

- ・線路と道路が並行しているため、特徴的な構成
- ・スカイテラスで動線が立体的になり、車と人の区別ができている

商業・にぎわい

- ・駅ビルの店舗にチェーン店が多く、地元根付いたお店もある
- ・商店街と駅が連携できるとよい
- ・休日にもかかわらず人通りが少なく、人の動きが見えなかった

みどり・樹木

- ・花壇などがよく手入れされていて綺麗
- ・植物がまだ成長途中に感じられた
- ・狭山市ならではの要素（お茶など）があるとよい

サイン・案内板

- ・駅を出たところなどに案内板、バスの時刻表があり便利
- ・人の動きを考えた場所にサインが設置されていた

モニュメント・シンボル

- ・子ども達が絵付けしたタイルが広場のシンボルになっていて印象的
- ・モニュメントについて、景観の視点から考えてみたい

駅の印象を考えるキーワード

- 空の見え方 空間の広がり 建物
 広告物 駅を使っている人 広場
 みどり・樹木 行事 地形
 バス 車 色彩 ロータリー …など

駅から外に出たら？

家から駅に向かったら？



駅周辺の景観のこんな要素を考えてみよう！

武蔵小金井駅

駅周辺

- ・駅舎がシンボリックなデザインでよい
- ・屋外広告物が少なくすっきりしている
- ・すでに周りの街ができあがっていて、限られた条件の中で整備した印象

駅前広場・交通

- ・交通広場とイベント広場とが分かれており、バスや車の動線と、歩行者の動線が分けられている

にぎわい

- ・コミュニティ広場やムサコガーデンに人の活動や暮らしが見える
- ・市民センターとコミュニティ広場がよい関係になっている

ムサコガーデン

- ・高架下を活かして、「ほっとする」空間がつけられているのがよい
- ・居心地のよい、憩いの空間になっている

みどり・樹木

- ・コミュニティ広場のシンボルツリー（メタセコイヤ）が圧倒的でインパクトがある
- ・歩道の花壇や、ロータリーの樹木が綺麗に整備されている
- ・『樹木を守った人たち』の案内看板が印象的
- ・緑が少ないと感じる場所もある

2駅共通

駅周辺

- ・線路を挟んで駅の両側に駅前広場があり、それぞれの広場や街の雰囲気の差が明確
- ・駅に隣接して市民センターがあり、人が集まる場所になっている

みどり・樹木

- ・ロータリー内に植栽が計画されており、単にバスやタクシーのプールではなく、緑のうらおいが感じられるデザイン
- ・常緑樹と落葉樹のバランスが良く、冬でも緑が感じられる樹木があった

- 建築物・屋外広告物のすっきりした景観
- みどりの種類や整備、日常的な手入れ
- 車と歩行者が共存した駅前空間
- 人々が集い、楽しむことができる広場空間
- 駅と地域の商業との関係性
- 駅前のシンボル・モニュメントのあり方

景観アドバイザー 石川先生より

視察した駅は、それぞれ地形や街の状況を踏まえて検討・整備されています。視察で気づいた良い点や課題を参考に、次の点もポイントに、今後の調布市の駅周辺の景観を考えていきましょう。

『人』がつくる景観

- 人がいることで良くなるデザイン、人がいないと寂しい雰囲気になってしまうデザインはある
- 人がたくさんいることが良いのではなく、人が減っても『良い』と言える駅前広場を考えてみよう

そこにある『必然性』

- 広場や駅舎の形やデザインの前に、そこにあるべきものの『必然性』に目を向けている方が多かった
- 例えば狭山市駅であれば『お茶』など、その土地に関連した要素が重要

駅周辺の『シンボル』

- 駅や広場だけでも成立するが、その駅の象徴になるものがあると、場所の特徴や痕跡が感じられる
- モニュメントやシンボルがあった方がよいか、どのようなものがよいかは議論の余地がある